

広報 なかつえ

平成3年1月号／大分県日田郡中津江村／No.295号



新春を彩る消防団出初式

〈1月6日〉

91
1

No.295



村花「しゃくなげ」

《村民憲章》

わたしたちは、中津江村民であることに誇りをもち、みんなで力を合わせて、明るく豊かな村をつくるためこの憲章を定めます。

1. 礼儀正しく、思いやりのある村民になります。
2. 自然を愛し、美しい環境をつくります。
3. 健康で、楽しい家庭をつくります。
4. 資源を生かし、生産にはげみます。
5. 伝統と文化を愛し、教養をたかめます。

かぶ

平成

三年は未年です。
羊は「おとなしい」

「柔順」「群れる」などの
イメージがありますが、何よ

りもわたしたちが実感できる

のは、ウールのセー

ターや皮製品の肌ざ

わりと温かさです。

羊は紀元前六千年

ごろ、家畜化されたの

が、紀元前三千四

百年ごろですか、

馬が家畜化されたの

といわれています。

羊と人間の付き合い

は、かなり長いこと

になります。

今 年 は 未 年

ゆきかみ



明治

の初期、政府は綿

羊の飼育振興を試

みましたが失敗。その後、軍

服などの製造のために、羊の

飼育が奨励されました。また、

戦後は農家の副業と

して、多いときは百

万頭も飼育されてい

ました。しかし、現

在の飼育頭数は、北

海道や東北などを中

心に、三万七百頭ぐ

らいに過ぎません。

最近では、全国各地

で観光牧場などの整

備が進み子供たち

が羊を見る機会は増

えました。

羊毛は、天然繊維

の人気上昇で、日本

での需要が増えてい

ます。外国産が中心

で、オーストラリア

やニュージーランド

などから輸入してい

ます。

さて、「一年の計は元旦にあ

ります」といいます。今年の目標

を決め、「迷える羊」になら

ないよう、スタートを切りた

いものです。

日本には、羊

にまつわる諺があまり多くあ

りません。

すぐに思いつくと

ころでは、「羊の皮を

着た狼」、「羊頭狗肉」くらいのもので

す。曲がりくねつた

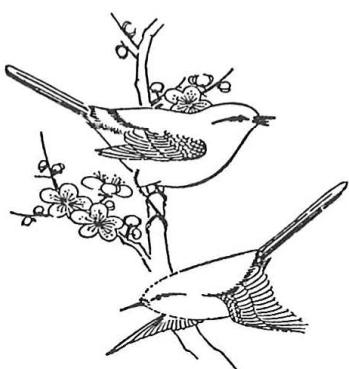
山道を「羊腸」と表現します

が、これはちょっと古臭い感

じがしますね。

では、なぜ羊に関する諺が

少ないのでしょう。西暦五九



燃ゆるがごとき熱き心で

村づくりをすすめよう



あけましておめでとうございます

村長 北 村 益 郁

新春明けましておめでとうございます。

旧年中は公私共に大変お世話になりました。なお、本年も何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

村民皆様方にはおそらくで良いお正月をお迎えの事とお喜び申し上げます。

常日頃から何かと行政につきましてはご指導、ご協力を賜つていてますことに對しまして、心から厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返つてみますと、新年早々鯛生金山グラウンドにおいて、芳山副知事、帆足県消防協会長他、多数のご来賓をお迎えして消防団のモデル特別点検式が盛大に開催され、消防団員の皆様方が日頃の訓練の成果を見事に披露していくただいたことに対しまして、あらためて心から厚くお礼を申し上げます。

二月には衆議院議員の選挙が行われ、皆様方のご支援のお陰をもちまして、畠先生が当選され、今後とも国政とのつながりに明るい見通しができました事を深く感謝申し上げます。

夏には、現在整備を進めています鰐生スポーツ基地の宿泊所の仮オープニング式が行われ、秋に天皇即位の礼が行われ、一年の月日がアツという間に過ぎ去った感じがいたしまして「光陰矢の如し」の言葉の通りですさて、今年はいかなる年になりますか？

今年は羊年でございますが、村民皆様にとつて良い年となりますように念願するものでございます。

亡き齊藤前村長の念願でもあつた鰐生スポーツ基地は、今年の春にはほとんど完成の予定で、都市と山村との交流の場として大いに期待できると思っております。なお、宿泊する方々には、村営で初めてのことでは慣れない点もあり、サービス面でまだまだ不十分とは

思いますが、今後とも経験を重ねてより良き方向にならうように努力していくつもりです。

また、大分県内の十一村の関係者が一堂に会しての「豊の国村サミット」が中津江村で行われる予定で、村としては、県下の村長さんには、鰯生スポーツ基地をPRする絶好の機会と思つております。

秋には、日田郡五ヶ町村の福祉スポーツ大会も本村で行われる予定でございます。村民皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げます。

教育面では、上津江村から中津江村に対して、上津江中学校と津江中学校の対等合併の相談があり、上津江村の意向では、できれば平成四年四月に発足したいとのことですので、早急に両村で中学校合併促進委員会でも組織して、今後の課題解決に対処しなければならないと考えています。

さらに教育面で考えますに、日田玖珠広域圏人口十数万人いる中で大学がないという現実でございます。

日田が広瀬淡窓先生の出身

地という史実から、大学設置を広域圈問題として取り上げ、実現させることこそ重要な案件だと思います。

日本三大林業地の日田に林業専門の林業大学や、女子短大等が是非必要なのでないでしょうか。

現在、日田玖珠の七つの高校の卒業生が、日田地域外の大学に進学している、そして田舎に帰つて来ない経費や人的損失は計り知れないものがあります。人口減にも大きな影響を及ぼしています。

平成二年十月の国勢調査で、大分県の人口は昭和六十年と比較して一万三千人程度減少し、本村の人口も、一、五〇五人で昭和六十年より八十二人減少しています。県も人口減少に対策を考えていますが、「二十一世紀の村づくり、中津江村はどうあるべきか」というテーマで、昨年の十月に村内20代、30代の若い方々と村の執行部との意見交換を行いました。

若い方が村を思い、熱い情熱と燃ゆるがごとき心情を思う時、その結論はす

ぐにはでませんが、若い方々がソフト面で精一杯勉強したいということを肌で感じた次第です。

今後とも機会あるごとに懇談会を重ねたいと思っておりますし、各関係事業で、人材育成研修費などソフト面に対する予算を計上していきたいと考えております。

村づくり、村の発展に急激な変化が望めないにしても、現在の時流に従つた生き方をしなければその村の発展はありえないのではないか?。今、一世紀に向けての基礎づくりの時代であれば、村の人口にしても果たしてどの程度が望ましいのか、過疎とはどの程度の人口をいうのか、県知事のいう適疎とはどの程度の人口か?。本村の実態調査をつぶさに実施しなければならない時期ではあります。

農林業振興については、昨年上津江村で林業会社が第三セクター方式で発足し大分県でも第三セクター方式の林業会社を設立する動きがあります。

今年は各関係者の皆様のご支援、ご協力を賜り、県森林組合、村、山林所有者作業班との協議でより良き解決の糸口を見出し、林業後継者の確保、育成につい

て最善の努力をしていきたくと考えています。

農業関係については、農業農村活性化農業構造改善事業で、農村連絡情報施設という情報伝達システムを計画しています。これは市場等の情報をその日に各農家に流す情報システムで、足腰の強い特産品づくりに貢献していくことを考えております。また、人材育成などのソフト面の充実も引き続き行いたいと思います。

農林業の振興こそ本当の村の活性化につながるもので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉では、社会福祉協議会を法人化し、デイ・サービス事業など各種の福祉事業を行つていますが、人組織とは言い切れません。

しかし、本村は県下でも資金その他の経済力の弱さから、運営活動が大変困難な状態で必ずしも完全な法人組織とは言えません。

託老所を是非考えて欲しいとの要望が出されていますが、施設の充実はさほど困難とは思いませんが、行政面での運営で果たして成り立つか?、老人福祉対策になるのか?。これは大変重要な問題と思われますので、村議会や社会福祉関係の方々とも充分に協議して、より良い方法に最善の努力をしなければならないと思っています。

最後になりましたが、羊年にふさわしい、やさしく、美しく、明るい村づくりをめざしてより一層努力いたしました。

今後とも、村民皆様方の温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、年頭のごあいさつといったします。

八年オープン以来、今年で九年目を迎えます。年々入坑者が減少しております。これ

方のご指導をお願い申上げます。

鯛生金山観光も昭和五十年目を迎えます。年々入坑者が減少しております。これ

はないと、若手の皆様方の理解、協力をよろしくお願い申し上げます。



将来を見据えた 村づくりを



議長
鷹野 勉

新年あけましておめでとうございます。

平成になつて二度目の新春であり、村民皆様方には輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新しい年の始めにあたり今年が平和で明るい年でありますよう、皆様方とともに祈念するものであります。

昨年は、イラクによるクウェート占領、多くの人質

問題が最大の関心事でありました。この中東情勢の不安定の中で石油の暴騰につながり、オイルショックに匹敵するものであります。世界的にも、日本国内でも、かつてのオイルショックのパニックまで至つております。

これは今までの経験により対応能力が向上し、ひいては経済の弾力性の表れであります。資源輸入

一月に行われた消防団モーデル特別点検式。この点検は寒波の中、団員各位の日頃の努力の成果が十分發揮され、大変すばらしいものになりました。今でも目に焼きついております。

七月の台風による大災害。被害が大きかつたにもかかわらず、幸いにも人的な被害はありませんでした。

スポーツセンターの仮オーブン、B&G体育館建設着工、鯛生小学校プールの建設等々。いろいろとありました。

また、昨年は五年に一度

平和といえば、東西ドイツの統合が明るい話題で、四十五年目にしての戦後の終了といえるものです。全世界的に民主主義の思想の台頭により、世界の流れが大きく変わっていきます。本村を振り返ってみますと、いろいろなことがあります。

さて、平成三年はどのようないい年になりますか？ 平和で明るい年になるよう努力していくことが大切です。そのためにはいろいろな施策があると思いますが、私が感じ、考えていることを列挙したいと思います。

まず第一に、高齢者福祉の充実であります。本村は県下でも高齢者の比率が高く、全国的にも十数年進んでいなければならぬといふことでもあります。現実的には国の制度や財政的にも困難なこともあります。これを打破し、高齢者の福祉の先進地にならなければなりません。これから老人なりません。これから老人福祉センターを充実し、現在実施されているデイ・サービス事業、ホームヘルパ

ー事業などの福祉事業を充実、改善、拡大をはかつて高齢者の住みよい中津江村を築いていく必要があります。第二に農林業の後継者、従事者の確保であります。ご案内のとおり深刻な問題です。好景気の時期でもあります。県下の一減少率から、今回はワースト10にも入つておりません。嬉しいことです。

第三に、結婚祝金、出産育児手当の制度の確立であります。以前、結婚祝金の制度の適用がありましたが最近はほとんどありません。また、出産、育児手当は現在実施しているデイ・サービス事業、ホームヘル

思いやりの心を —感動と信頼—



教育長
長谷部 雍彦

佐藤前教育長の後任として、昨年八月末に中津江村教育委員会教育長を命ぜられました。二十一世紀を視野にとらえて教育改革がおこなわれて以来、私は教育長を拝命し、私としては身の引き締まる思いであります。新任務は、身に余る重責ではござりますが、職責の遂行に誠心誠意の努力を尽す所存でござりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

世界は急速にまた大きく変動しています。こうした世界の動きから教育界も国際化・情報化が急速にすすんでゆくと思われます。

習社会の形成を目指す社会教育の振興」ということを県は社会教育指導方針の中核としていますので、本村においても、このことにそいながらの施策の推進を図る必要があると思われます。

その意味で本年の社会教育の最重要点に「生涯学習の推進」ということをあげたいと思います。そのためには、各種教育機関・諸団体等の有する教育機能の活性化と相互の連携強化に努めその体系化を図らなければなりません。どうか村民の皆さまのご協力をお願ひいたします。

村独自の制度を確立するこ
とが必要です。子どもは宝
で、半世紀後の中津江村を
支える大事な人たちです。
その子どもたちへの投資を
しなければ本村の将来も危
うくなります。日先のこと
だけではなく、遠く将来を
見据えて対応しなければな
らないと思います。

一時間程度は当たり前となつており、今後近隣市町村へ通勤可能な道路環境の整備が必要であります。人口の歯止め対策としても、村営住宅の増設、住宅団地の造成等を推進していくことも必要だと思います。

覚で運営を図らなければなりません。村の担当職員には厳しいものがあると思いますが、がんばつてもらいたいものです。また、鯛生金山がオープンして九年目を迎え、入坑者も除々に減少しています。金山の経営状態は黒字ですが、いつ赤字になるかわかりません。金山がお荷物にならないためにも、金山職員の方々、なお一層がんばつていただきたいと思います。また、

博物館であるため一度来たら二度来ないというようなことがあります。長く続けるためには常に投資していかねばなりません。

産施設等現有施設の最大限の有効活用を進めていかねばなりません。あれがない、これがないの時ではありません。現有資源を大いに活用し、村民一人一人力を合わせていけば、必ず報われてくると思っています。私たち議員一同これからも全力をあげ、誠心誠意努力していくことを約しまして新年のごあいさつといたします。

社会体育におきましては、村民のすべてが、健康で充実した生活を確保するため「生涯スポーツ」の推進はますます重要な課題となっています。体育施設としては、猪野の鰐生スポーツセンターの整備もなされ、B & G の体育馆、プールも完成します。その他の村内の各施設を大いに利用されて、自ら自分でスポーツに取り組み、生涯を通して自らの健康・体力の保持増進に努めています。

高校中退等については、本村では無関係と思われがちですが、早期の適確な取り組みが必要だと考えられます。私は、こうした教育界の現状をふまえ、教育委員会や諸関係機関との緊密な連携を図りながら努力する覚悟でございます。「思いやりの心」は、私の基本姿勢の一つであります。「思いやりの心」を持つすべてにあたれば、親と子、保護者と教師、教師と児童生徒、地域の人々の間に信頼関係が生まれ感動が持てる「心の時代」が来ると思います。

出場をはじめ、前津江中の男子剣道部の全国大会出場上津江中の陸上男子（三段跳）九州大会出場、県中学校駅伝では、大山中女子三位五馬中男子十一位、その他多数の運動部が県大会で上位をしめました。

家族みんなで 交通安全について話し合おう

「交通事故のない明るい社会をつくろう」——これは多くの人々の願いです。

しかし昨年も交通事故が一昨年と同様のペースで多発し、昨年10月末すでに9千人以上の方が亡くなっています。

交通事故を防ぐには、子供からお年寄りにいたる家族みんなが、交通安全について正しい認識をもち、正しい交通ルールとマナーを実践することが大切です。

「家族」の中にはドライバーとしてのお父さんやお兄さん、ミニバイクに乗るお母さん、自転車に乗る子供たち、そして歩行者としてのお年寄りなど、さまざまなメンバーがそろっています。そのため、家族がそれぞれの立場で交通安全について話し合うことは、交通安全についての理解を深めるうえで非常に役立ち、正しい交通ルールとマナーの実践に結び付きます。「交通安全は家庭から」といわれる理由はここにあるのです。

それぞれ異なった立場から話し合うことが大切。話し合いには、特に決まった形があるわけではありません。家族がそろった夕食時や、家族みんなでドライブに出かけたときなど、「いつで



も、どこでも、だれとでも」、次に挙げるようなことをきっかけに、ざっくばらんに話し合ってみましょう。
 • 新聞やテレビなどの交通事故のニュース
 • 身近なところで起こった交通事故
 • 自分が車や自転車に乗っていてヒヤッとしたこと

交通事故の恐ろしさや交通ルールの大切さ、どのようなときに事故に遭うのかなどが、話の中心になることでしょう。このとき、お父さんやお兄さんはドライバーの立場から、子供やお年寄りは歩行者の立場からというように、それぞれ異なった立場から、どんなことに気を付けていいのかを話し合うことが大切です。

あなたの家庭から、交通事故の被害者や加害者を一人も出すことのないよう、お宅でも早速、家族みんなで話し合いをしてみてはいかがでしょうか。

貴重な文化財を 炎の魔の手から守ろう

昭和24年1月26日に法隆寺金堂が出火、世界的至宝といわれた内壁の12面に描かれた仏画の大半が焼損してしまいました。

この不幸な出来事を教訓とし、貴重な文化財を火災や震災、そのほかの災害から守るため、1月26日を“文化財防火デー”と定めています。

文化遺産は燃えやすい材質

文化財には、国が指定した国宝や重要文化財ばかりでなく、郷土の誇りでもある文化遺産がわたしたちの回りにはたくさんあります。お寺や神社などの建造物や仏像、絵画などの美術工芸品をはじめとして、古くから伝わる祭屋台などの民族文化財は、長い年月の間、われわれの祖先より守り伝えられてきた貴重な国民的財産です。

ところがこういった建造物のほとんどが木造であり、美術工芸品なども燃えやすい木や紙や布などで造られています。そのうえ、文化財は人家の密集地にあるものが多いいため、常に火災の危険にさらされているといつても過言ではあ

りません。日本の歴史と文化の軌跡を示す文化財を、炎の魔の手から守ることは、わたしたち一人一人の願いであり、責任であるといえるでしょう。

火災の原因はちょっとした不注意から

特に冬場と春先は空気が乾燥し、火災の起きやすいシーズンです。大切な文化財を火災などの危険から守るために、次のようなことを心がけたいものです。

○喫煙・火気禁止区域内で、たばこを吸ったり火遊びをしたりするなどの行為はやめる。

○文化財周辺地域に住む人は、防災のための連絡を密にし、消防機関への通報、情報連絡を速やかに行える体制を整えておく。また、文化財周辺の環境の整備、整とんに努める。

○文化財の関係者は、ふだんから自衛消防組織などの防災体制の整備強化に努める。

火災は、ちょっとした不注意が原因で起こることが多いのです。くれぐれも火の元にはご注意を！

スチール・アイロンの蒸気を
凹みに吹きつけるのも一つの方
法ですが、この場合はアイロン
を直接押しつけないで、凹みと
その周辺に、まんべんなく蒸気
を吹きつけてください。ウール
のじゅうたんも、この方法で凹
みがとれます。畳は乾きが悪い
ので、凹みの直しは天気の良い
日にするようにしましよう。

元に戻りません。

頑固な匂の凹みは、アイロンを当てると、意外に効果があります。まず匂の凹みに霧を吹き、その上にタオル、または固く絞ったぞうきんを凹みに乗せて、アイロンを当てます。何度もアイロンを当てを繰り返しますと、凹みが直ってきます。(つまり、匂の凹みを蒸して膨らませるわけです。)

骨の手入れ



凹みは蒸して膨らます

また、ミカンやレモンも、汚れ落としに一役買います。約五個分のミカンまたはレモンの皮を、十五分ぐらい煮ます。その煮汁を入れたお湯で、そうきんを固く絞り、軽く畳をふきます。ミカンやレモンには、漂白作用があるので黄ばみが取れ、ツヤも出でります。

「」のような方法で、用に一度は畳をふいてやり

口は、どうきんでふき取らなければいけません。バケツ七分目ぐらいのお湯に酢を一杯ほど入れ、そつきんを固く絞つて畳の目に沿つてふきます。酢は、畳の黄ばみを取るのに効果的です。強く力シカシふくと畳を傷めます。軽くふくのが汚れ落としのツです。